

平成25年3月中川村議会定例会議事日程(3)

平成25年3月13日(水) 午前9時00分 開議

日程第1 一般質問

9番 竹沢久美子

(1) 曾我村政二期八年の総括と評価

2番 高橋昭夫

(1) 「日本で最も美しい村」として、これから求められるもの

日程第2 議案第29号 中川村監査委員の選任について

出席議員(9名)

1番	中塚礼次郎
2番	高橋昭夫
4番	山崎啓造
5番	村田豊
6番	大原孝芳
7番	湯澤賢一
8番	柳生仁
9番	竹沢久美子
10番	松村隆一

説明のために参加した者

村長	曾我逸郎	副村長	河崎誠
教育長	松村正明	総務課長	宮下健彦
会計管理者	宮澤学	住民税務課長	北島眞
保健福祉課長	玉垣章司	振興課長	福島喜弘
建設水道課長	鈴木勝	教育次長	座光寺悟司

職務のために参加した者

議会事務局長	中平千賀夫
書記	松村順子

# 平成25年3月中川村議会定例会

## 会議のてんまつ

平成25年3月13日 午前9時00分 開議

- 事務局長 　ご起立願います。(一同起立) 礼。(一同礼) 着席ください。(一同着席)
- 議長 　おはようございます。(一同「おはようございます」)
- ご参集ご苦労さまでございます。
- ただいまの出席議員数は全員であります。定足数に達しておりますので、ただいまから本日の会議を開きます。
- 本日の議事日程は、お手元に配付したとおりであります。
- 日程第1　一般質問を行います。
- 通告順に発言を許します。
- 9番　竹沢久美子議員。
- 9番　(竹沢久美子)　それでは、私は、さきに通告しました曾我村政2期8年の総括と評価についてお聞きしたいと思います。
- 2011年3月11日の東日本大震災、翌3月12日の栄村を襲った長野県北部地震から2年目の春を迎えました。3月11、12日慰霊と復興を願うさまざまな行事が行われました。
- 県北部の栄村では復興を願う灯明祭りが行われ、住宅建設や独自の村おこし事業が起りつつあるが、村民流出による過疎化は歯どめがかからない、難しいことだと言われている。
- そして、東日本大震災の被災地では、津波、地震、加えて過酷な原発事故による復興には、岩手、宮城、福島の間単位、また、被災地の中でも比較的軽度だった地域と壊滅的な地域や、住民の思いにも温度差が生じていると報道されています。
- 震災の被災者は、3月11日現在、これは警察庁の発表ですが、1万5,882人の死者、行方不明2,668人となっており、また、2月7日現在の避難者数は、こちらは復興庁の発表ですが、31万5,196人と発表されております。関連死の方も含めると多数の犠牲者がおります。亡くなられた皆様のご冥福と各地で避難生活をされている皆様に一日も早い日常が戻られることを心から願っております。
- それとともに、災害だけなら早期に復興できるのに、原発事故は収束の道筋が見えません。復興とは名ばかりの現地をそのままに、早くも原発再稼働に前のめりの安倍首相、東北の痛みを感じないのでしょうか。
- 私は、先日、東京芸術座の舞台「蟹工船」を見ました。昭和の初めの劣悪な労働条件のもとで働く労働者の姿と戦いの物語です。横に座っていた夫が「原発労働者と同じだ。」とつぶやきました。形は変わっても底辺で働く人たちの姿は同じです。
- T P P参加、原発再稼働、憲法改正など、沖縄オスプレイの問題など、大手マスコミを総動員しての安倍政権の強権的な本質を見抜かないと、日本は取り返しのつかない方向へ進んでいってしまうのではないかと思います。

- 3・11の教訓から、私たちは、経済優先の考え方から、守るべきもの、大切なものは何かという価値観へ軌道修正する岐路に立たされていると思います。
- 東北の方々の無念さを決して風化させないため、これからもできることから取り組んでいきたいと思っております。
- それでは一般質問の本題に入らせていただきます。
- さきに通告しました曾我村政2期8年の総括と評価については、今議会では4番議員、8番議員から同内容の質問が出されております。できるだけ重複を避け、質問をしたいと思っております。
- 3月4日の平成25年度予算提案と村政の基本方針の中で、世界経済のグローバル化の中で、その波は、この小さな村にも容赦なく波及してきている、そうした中で村民の内発的発展こそが生き残りをかけた道であり、そのための村民が活躍するための環境整備がされてきているとしています。
- 私は、この村長の内発的発展という思いや理念が村民に十分に伝わっていないのではないかと、残念ながら半分ぐらいの人たちにしか、まだ浸透していないのではないかと、その思いをしていますが、村長はどう考えておりますか。
- 村長　浸透度という意味で、半分か、3分の1か、3分の2かという、その辺のところ、ちょっと、私もよくわからないところではありますが、その実際の動きとして、新たに、こう、じゃあ、1つ、自分の得意なところ、自分の置かれている環境の中から有利な部分を、こんなふうを活用して、ひとつこういうことをやってやろうかっていう動きがですね、私が願っているほどには、まだ、その動きは広がっていない、ないわけではなくて、心強く思うような楽しみなこともありますけれども、もう少し、それがたくさん広がって行って、みんなで、その新たな盟友同志がですね、つながり合っていくと、もっともっとパワフルになってくるのではないかなという期待をしております。
- 9番　(竹沢久美子)　私もそのように思います。せっかくいい理念や、そうした思いを持っていても、つながっていなければ、やっぱり効果は目に見えてこない、効果が目に見えてこない、なかなか、みんな、その第一歩が出せないというようなことがあると思っております。
- 村長の思いは、そういうわけで、お聞きしましたので、私は私なりに曾我村政の8年間を課題も含めて総括、評価させていただきたいと思っております。
- まず1点目といたしまして、8年前、合併しなければ村はやっていけないと、合併賛成の声が住民投票でも反対を若干上回っていました。しかし、合併の話が相手市町村の都合で立ち消えになると、その話はなかったかのように村長選になりました。そうした結果、生まれたのが曾我村政です。懸念された財政問題は、昨日の4番議員への答弁にでもあるように、国の景気対策の追い風もありましたが、借金を減らし、基金を増やし、今後備える体制固めができたと思っております。もちろん、このことは村長一人の力ではなく、職員と協力して進めてきたことですが、このことについて昨日も答弁はありましたが、村長の口からお聞きしたいと思っております。

○村 長 思い返してみると、大変、財政問題、交付税ががが減らされていくというようなことで、破綻は必至だ、幾ら村民の負担を増やし、住民サービスを削っても、どうしようもないんだというようなお話が、試算がされていたわけなんですけども、そういう中で、その当時は2、3年はしんどいけど、その後、何とかなるんじゃないかみたい、数字をですね、つなぎ合わせていくと、そういうことも見えるんじゃないかというふうなことで、それでも、本当にそうかなというふうな気持ちもありましたが、結果的にはというふうなことではありますけども、当初、確かに、最初の2年か3年ぐらいは基金の取り崩しを見込まないと当初予算が立てられないというような厳しい状況ではあったかと思えますけども、それも取り崩しをせずにやってこられたし、今、お話のとおり、貯金を増やして借金を早く返してというふうなことができてきたし、また、総合計画とか過疎計画で挙げている、例えば村道の改良とか、そういうことについても、そのペースを若干上回る形でも取り組めたのではないのかなというふうなことを感じておって、まあ大変ありがたいことかなというふうに思っております。

○9 番 (竹沢久美子) 私も無駄な公共事業は必要でないというふうに思います。

しかし、私たちの美里地区を考えてもそうですけど、道路の問題は、やっぱり生命線と結びつく問題でもありましたし、今の取りかかっている道路の問題も、中川村にとっては、やはり必要な道路だろうというふうに認識しております。

この流れは、過疎債が続くうちに、やっぱり何とかやっていかなければという思いはありますので、そうした取り組みは、ぜひ続けていっていただきたい、そんなふうに思っております。

続いて、村長の目玉であります、村長の施策の目玉であります子育て支援についてお聞きしたいと思います。

バンビーニの開設は1期目でしたが、村内はもちろん、他市町村からも多くの利用者があり、村内へ嫁いできた右も左もわからない人ばかりの中で、出産、育児を取り組んだお母さん方から、友達ができて子育てを頑張れたとの声を多く聞いております。

また、医療費の無料化、1期目は小学校6年生まででした。そして、2期目は、公約では中学卒業まででしたが、現在、高校卒業までが延長されております。

私たち日本共産党といたしましても、選挙公約として、これは独自に高校卒業までの窓口の無料化を求めてまいりました。県との調整などもあり、窓口無料化は、まだ実現しておりませんが、そうした中で、手続にかかわる費用も村が持つような状況をして、負担は少なくなっていると思います。

また、準要保護の児童、生徒の給食費無料化の実現ですが、この件、私は、かつての一般質問でも、大阪府の問題でしたが、本当に大阪は給食が実施されていない高校などもあって、お弁当を持って来られない子どもが現在でもいるというお話をさせていただきました。そうした中で、この給食費の準要保護児童・生徒に限る問題ではありますけれども、経済的に恵まれない子どもたちや親たちにとっては大変大きな支援となっていると思います。

それから、両保育園の改修・耐震化、未満児の改築、これは、まだ、今年のもので

はありませんけれど、未満児も定員が非常に増えてきているということで、希望者が増えてきているということで、こういう対応には、すぐに取りかかっていたいただきたいと思います。

それから、若者住宅など、中川村を子育ての場所と選択された方たちに評価されている施策ですが、まだ、私のところへは、非正規や、それから、なかなか正職に就けない方たちから、もっと安くて、やっぱり、住める借家や、それから、なんかの整備をしていただきたいというような声も出ております。こうした声も含めて、子育て支援策について8年の総括をお願いしたいと思います。

○村 長 申し上げようと思っていたことの大半を網羅をしていただいたという感じがして、手をつけたことは、全部、言っていたかかなと思うので、それ以上のことはできていない部分のほうになるかと思えますけども、また、議員の皆様方から、このあたり、不足の部分があるというふうなところ、気づいていないところあるかと思えますので、ご指摘をいただいて、本当に子どもたちが伸び伸びと育って行って、次の中川村、あるいは次の社会を背負うような人になってもらわないと大変困りますので、ぜひ、子どもたちが、自分それぞれの思うところに従って伸び伸びと暮らせるような中川村にしていきたいと思っておりますので、また、ご意見なり、ご提言なりいただければと思います。

○9 番 (竹沢久美子) 今、やられてきた施策についてお聞きして、大体やってきたことで、私たちが評価している部分を申し上げたわけですが、そのほかに、子育て支援ではどのようなことを考えているか、もし、思いがありましたらお聞きしたいと思います。

○村 長 その辺は、選挙の公約で、何か事前運動になってもいけませんので、まとめて、また、いずれ、ご説明をする機会があるかと思えます。

○9 番 (竹沢久美子) 選挙は選挙ですので、今までの経過の中で思いをおっしゃっていただくのは別に差し障りないと思いますが、村長が、そういうお立場で発言されるのであれば、あえてお聞きしません。

それでは、環境整備についてお聞きしたいと思います。

昨日も出されましが、環境整備については、チャオ周辺の活性化がどのような形でなされたかというふうなことで、それとつくっちゃオの加工施設の活用についてのご意見も出されておりました。

私も、平成25年度から指定管理になるので、このつくっちゃオについては、すばらしい施設ができていますので、村民利用を進めること、このことを重点的にやっていくべきではないかというふうに考えております。

それから、農業問題でも、もうかる農業だとか後継者のできる農業ということで、昨日も、そんな答弁がありました。

片桐診療所の新築もすることはできましたが、昨日の4番議員への答弁にもありましたが、もし、補足する点があればお答えいただきたいと思います。

○村 長 2期目のときの公約ということでは7つを挙げておって、今、それもホームページでごらんになって、村のホームページでごらんになっていただければと思いますけども、

そのうちですね、2番目が、農業を初めとする産業の高付加価値化、内発的発展というふうなことをテーマにしておりまして、そこです、具体的なこととしてはですね、ちょっとあれですけども、ふるさと雇用再生特別事業という枠を活用して、中川観光開発に人材を置いて、その方にいろいろ村の地域資源の開発というか、商品化というか、そういうふうなことについて取り組みをしてもらおうというふうなことを申し上げておりました。それにつきましては、ご存知のとおり、何年間かでしたっけ、ちょっと年数わかりませんが、やっただけですけども、なかなか目立った成果が上がらないまま、そのプロジェクト自体は頓挫をしてしまったというふうなことでございました。それにかわるというわけでは全然ないんですけども、方向性としては同様な方向性として、今、ご存知のとおり、地域力創造アドバイザーの井上さんに入っただけで、中川村の定住促進、地域活性化のための基本計画というものを一緒に村民の皆さんも入っただけながら、そういうものの取りまとめをしたところでございます。

それからまた、緑の分権改革という制度を活用して、猟友会の皆さんのご協力も得ながら、獣肉を活用して、それを商品化することはできないのかなというふうな、そういうような取り組みもしているところでございます。

いろいろ、望岳荘のほうでも、地域の食材の利用率をかなり上げてきておりますし、望岳荘自体も、この8年間、トータルで見ればですね、ここ2年ほどは、プラマイちょうどぴったりぐらいですけど、それまでの間はですね、かなり累積の赤字を解消する方向でいい成績を上げてきました。特に、今年は、ちょっとトンネルの影響なのか、トンネル事故の影響なのか、入り込み客等々のあれが出ておって苦戦をしているところですけども、そういう、全体としては、そういう外部的な要因等々もあって、最近、ちょっとあれですけども、この8年間、トータルで見ると、望岳荘も、それぞれ自分自身の経営にも、大変、職員一同、頑張っただけで、いい成績になってきたし、また、周辺村内への、何というか、波及効果ということも意識をしながら取り組むことができつつ、できるようになってきているのかなというふうに思います。その辺も、さらに広げていかなくてはいけないことかなと思っておりますし、つくっちゃオについても、もっともっとですね、一般の方の利用も、組合の方だけじゃなくて、ほかの方も使いやすく、何度も申し上げている安全面の管理っていう大事なこともあります。そういったこともしながら、一般の方にも使っただけ、また、きのうも申し上げました中川村の農家への波及効果、そして、中川村の名前を高める、ブランド価値を高めるような名産品の開発というふうなこと、もちろん、その上で、組合そのものの経営ということも、その結果ですね、安定していくというふうなことになるかと思っておりますけども、そんなふうなことを組合員の皆様方の試行錯誤の中で取り組んでいただけて、成果を上げていただけることを期待しているということでございます。

○9 番 (竹沢久美子) 農業を含めて、中川観光開発については後でお聞きしようと思いましたが、答弁をいただきましたので、本当に、この8年間の経営については、本当に、従業員の皆さんが、努力もありまして、厳しいけれども状態が改善されてきてい

ること、また、今、村長も申されましたが、この農産物を売り込むというか、人材の配置については、私も指摘をしようと思いましたが、答えていただきましたので、ぜひとも、今度、地域おこしアドバイザーの事業は、よい結果が出るようなふうに持っていかれたらと思います。

そして、農業の中で、私は、農業に里親制度があるんですけど、果樹園の継続というようなことを考えたときに、やっぱり、この制度だけでは限りがあるので、もっと利用しやすい施策があれば、村独自での、この応援施策があればというようなことを、具体的にどうだということには、まだ至っておりませんが、このことが重要ではないかなあっているふうに、村の農業を維持する上で、また、特産物の果樹を、木を切らないで済ませるためには、そうした施策が必要ではないかなあっているふうに考えております。

それと、もう1点、その環境整備の問題ですが、河川公園の利用がなかなか伸びていないじゃないかなあっているふうに感じるところがあるんですけど、何か大会を開くとか、そういう、拡大されたり、それから、本当に村民が自由にあそこで散策できるような、何か、そうしたものが出てくるといいなあっているふうに思っておりますが、この農業の問題と河川公園の利用についてお答えいただきたいと思っております。

○村 長 その農業のどうするかということも、余り踏み込むと、また、同じような選挙のあれになっちゃうので、あれなんですけども、いろいろ、多少だけ触れますと、中川で農業をしたいという、しっかりした、いろんなことを考えながら、そういうふうな思いを持っておられる若い方は、結構おられます。村で何百人もねえ、入れて、入ってもらうというわけではなくて、ポイントの中に何人か入っただけであれば、それで、すごく非常に大きな効果があるかと思うんですけども、そのとき、それぐらいの人数の方はいらっしゃると思うんですが、問題は、やっぱり住むところなんです、先ほども申されましたけど、なかなか、村営住宅の金額というのを払うのも、ちょっとしんどいし、もう少し、空き民家みたいなっていうふうなお話になって、なかなか、そこが住めないというふうなところがあるので、やっぱり、その住む場所というふうなことをクリアをしていくと、新たな担い手、それが、そのまま、そこに根づいてくれると一番いいし、また、そこで研修生的な、おっしゃったように里親のもとでの学ぶというふうなことでも、いい縁が広がっていけばありがたいことだというふうに思っています。

それから（行政無線放送あり）すみません。失礼しました。

河川公園につきましては、今までに使っただけでいるのは犬のフリスビーの大会が何度か、ちょうど、その犬を連れて車で集まるのに、東日本、西日本から集まってくるのにちょうどいい場所で、高速道路の便もいいというふうなことで、犬と一緒にキャンプもできるというふうなことで、使っただけでいます。

それから、音楽コンサートのものも何度かやっていただいているし、フットサルの大会なんかも行われているし、自転車の子どもたちが、そこで練習をしたりというふうなことも行われております。

ただ、頻度が高いかという、決して高くはない、恐らく、いろんなお話を聞いていると、それこそバンビーニのお母さんなんか聞いてみると、やっぱり、日差しとか、木がないとか、いろいろ、やっぱり、ちょっと子どもを連れて行くには、自然的に非常にいい時期にだけにしか行けない、冬は寒いし、夏は暑いみたいな、そんなお話があるんですけども、河川敷なものですから、その辺は限界がありますので、余り無理なこともできないし、単発のイベントっていうのを村で仕掛けて集客をするっていうことは余り考えていないので、いろんな方に、あそこを活用していただくというふうなことが、もう少し広がっていくように、それこそ、望岳荘で、あそこで何かしながら泊まってもらえるような企画の発信をすとかですね、望岳荘へ泊まって、あそこでイベントをするようなことをどうですかというふうなこととか、いろいろ、そういうような情報発信をして、イベントなり集まりを誘致するっていうふうなことを、村の広報も含めてやっていきたいなというふうに思います。

○9 番 (竹沢久美子) 続いて、高齢者支援世帯への生活支援についてお聞きしたいと思います。

ひとり暮らし、2人暮らしの高齢者への緊急通報装置の設置なども、大分、数が増えてきておりますが、そしてまた、介護保険を利用していない元気な方たちへの生きがいサービスなど、さまざまな施策が行われ、中川へ移り住まれた高齢の方で、今まで、前にも言いましたが、中川って村は、余り豊かな村じゃないし、大変なところへ引っ越してきたというような思いをしていたけど、非常に高齢者施策、顔が見える範囲でやっていただいて、ありがたいという、何年かたってからですけど、お声をお聞きしております。

そうした中で、農家の方々は、ほとんど生涯現役というような、今、状態であると思います。高齢者の知恵や技術を生かし、つなげる施策っていうものが、公民館などを中心に行われているわけですけど、こうしたものも1つの施策として取り上げていったらいいのではないかと思います。

先日、厚生文教委員会では、足助町の視察をしてまいりました。そうした中で、本当に昔の鍛冶屋さんから炭焼きから、いろいろな人たちが足助屋敷というものを構成してやっているのを見て、ああ、まだ、こういう技術がつながって、しかも若い後継者たちが、そこで観光という目的もあってやっているんですけど、つながっているのを見て、本当に羨ましいなと思って見せていただきました。

ぜひ、公民館、教育委員会を含めて、こうした施策が取り入れられていくことがいいのではないかと考えておりますが、高齢者を生かした施策とか、高齢者施策に対して、8年間での施策に対する評価なり総括がありましたらお聞きしたいと思います。

○村 長 今、おっしゃられたことのほかでは、その4年前の公約のときには、いきなり危険なレベルになっちゃうのかもしれませんが、ごみステーションを、地域の、そういう、なかなか高い所、低い所があつて、車のなかなか乗れないような高齢者が、声があるところについては、ごみステーションを増やしていただくようなことも、よろしくというふうなことをして、幾つかの地区では、ごみステーションの増設が行われたかなっ

ていうふうに思います。

高齢者の知恵とか伝承技術みたいなものが、引き継がれるだけではなくて、観光面にも生かされるというふうなお話がありましたけども、それを聞いていて思ったのは、村の中でもですね、味噌づくりみたいなことをやっているグループとか、いろんなグループがございます。そんなふうなことも生かしながら、それこそ観光的なことなんかもやっていただけるような、例えば、農家民宿なんだけども山菜取りとかキノコ取りなんかとあわせてやっていくとかですね、いろんな、それで地元料理の仕方なんか一緒に教えながらやっていくとかですね、そういうふうなことなんかで、ほかにはない、ただ単に来て見て帰るだけではない、もう少し、こう、深い対話のある、そして地元の伝承文化にも触れていただいて、リピーターになっていただけるようなことも増えていくとうれしいなと思っていますし、そういう提案なんかも、これからはさせていだかなくはないかなというふうに思っています。

○9 番 (竹沢久美子) 続いて、職員と一体感のある職場づくり、村づくりということでお聞きしたいと思います。

職員の提案や意見が、十分、村長の施策に反映されたか、中には、なかなか村長に対する厳しい意見もお聞きしますし、一般質問でも、そうした意見も出されておりましたが、この8年間で、村民に対する、その役場の職場としてのつくり、村づくりでの対応をどのように考えているか、感想をお聞きしたいと思います。

○村 長 いろいろ意見をお聞きしたいし、いい意見はどんどん採用したいし、これは違うなというふうな意見は、いろいろ議論をして、こうこうこうだから違うんではないですか、ああ、なるほど、そういうところはいいですねというふうな話をしながら進めていきたいというふうに思っているところでございます。何か、でも、おっしゃっているニュアンスというのが、ちょっと、私、余りびんと来ていないところがあるので、どうなんだろう、つまり、何となくニュアンスとしては、村民並びに職員が言いたいことが言えん雰囲気があるというようなニュアンスを感じたんですけども、それは、どんどん言うてもらえばいいんじゃないですか。つまり意見やったらつまらん、こういうところが逆に問題があるんじゃないかっていうふうなことは申し上げるでしょうし、それは、なるほどなと思つたら、そこを改善した意見をいただければいいので、別に、来た意見、来た意見、何でもかんでも、OK、OK、ハッピー、ハッピーということで採用はするつもりはないし、そこで、当然、議論をしながら、なるほどなというふうなところまで踏み込んでいって、いい案をつくっていく、さもないと、お金が必要になることですから、軽々に踏み込んでいって、無駄なことに使うわけにもいきませんので、村民にどういう利益もたらせるのかという揺動性とか、いろんなことを考えながらやっていきたいというふうに思います。

○9 番 (竹沢久美子) ちょっとニュアンス的に不明瞭だったかと思つていますが、中には、なかなか村長に意見が通らないとか、そういうような声も聞かれたことがありましたので、そういう声もあるということを知っていただきたい、ただ、今も言われたように、村民の税金を無駄なことに使うことはできないので、やっぱり、きちっとした討

議や、そうした検討がなされて、それが施策に反映されれば、私は、それでいいのではないかというふうに考えております。

村民対話についても、地区懇談会などがなかなか行われないうような意見もありましたが、村長からは、世帯主の参加がほとんどであって、大体、意見の集約等がなされても、そんなに新しい提案などがなくて、課題のあるところへは、要望があれば参加するというので、集いの広場などでは、村長を囲んでの意見交換などがあつたというふうに認識しておりますが、そうした考え方でよろしいでしょうか。

○村 長 やっぱり、きのうもちょっと出ましたけど、民主主義の根幹というか、根っこの部分かと思えますけども、行政側から仕掛けるっていうことよりも、住民サイドのほうで、皆さん方の中で、いろいろ考えの同じ人たち、あるいは違う人でもいいんですけども、そういう中でいろんな議論をしたりする中に、話を聞くというふうなことが大事かなというふうに思います。だから、地区のみにかかわらずですね、いろいろなグループ、文化的なグループであれ、政治的なグループであれ、環境問題に取り組んでいるところであれ、いろんなところからいろんなご意見というものはいただけますので、そういうものには積極的に聞いておりますし、また、いろんな大会がございますよね、それは、別に、懇談会をするから来いっていうような場合じゃなくてもですね、いろいろ、その同じ問題意識を持った人がディスカッションをするというふうな場ですね、ご案内をいただくことも非常に多くありますので、そういうところでオブザーバー的に見せていただいて、いろんな議論がされているというようなことから学べることも大変多いかと思えます。ですので、必ずしも私を呼んでというふうなことではなくて、皆さん方がなさるような勉強会ですとか、講演会ですとか、この間は飯田でデモがありましたけども、原発のデモがありましたけども、そういうものなんかにいって、いろんな方が意見発表されるものを聞くっていうのは大変勉強になることですし、そういうものにはどんどん参加をしていきたいと思うし、その場で、私に向けたものでなくても学べるところはたくさんありますし、それによって考えを深めることができると思うので、いろんなところでお声かけをいただいて、スケジュールの関係で全部が全部行けるかどうかわかりませんが、ご案内をいただくような形であれば、非常に、何か大ごとに考えずにやっていただけるのかもしれないと思いますので、そんなことのお誘いもいただけたらうれしいなと思います。

○9 番 (竹沢久美子) 昨日の、いろいろご意見を伺ってまいりましたけど、昨日の2期目の公約に対する達成度はどう評価しているか、私は、村長の言葉を借りますと、評価は自分でするものではなくて周りがするものだというようなお話でしたけど、そうした中でも、きのうの答弁では、まあまあではないかというような評価をされておりました。

村長の政治姿勢について、私は、政治の根幹は、国政においては国民の命と暮らしを守ることにあり、村政においては村民の命と暮らしをどう守っていくかにあると思います。この基本原則は、思想とか心情、党派を超えた国民や村民すべてにかかわる問題だと思っております。

そうした意味で、平和でなければ村民の日常はありえない、原発やTPP、憲法などを守るべきは、村民の命という姿勢には敬意を評しております。

現在、風化しかけている政治節操という言葉、なりふり構わず自分の利害で動く政治家が多い中、こうした立場を貫き通すことは大変難しいことだと思います。

村長は、今、言われたように自分からどんどんデモとか、本当に勉強するためにも出て行ったり、インターネットでも発信をして、それが物議を醸し出している部分もありますけれど、こうした姿勢について村長の思いをお聞きしたいと思います。

○村 長 お話を伺いながら思ったのは、命と暮らしを守るということからですね、必ずしも同じ結論に出ないという部分もあるんですね、だから、その命と暮らしを守るためには軍備が必要だとかですね、命と暮らしを守るためには核兵器が必要だというような論理もあるし、多分、北朝鮮は、その一番最後のことを考えているんだろうと思いますけども、だから、その命と暮らしを守るためであれば、オールマイティーでも何でもOKっていうわけじゃなくて、そのためにはどうすればいいのかという議論をしていかなければいけない。私は、核兵器にせよ、軍事抑止力にせよ、今までの表面的に言われていることとは別にですね、かえって、そのことによって、単的にはイラクがそうですね、大量破壊兵器があるから、あるというふうな理由づけによって、ああいうふうになっちゃったわけですから、だから、外交能力もないくせに、変に武器を持つとですね、逆に攻撃を呼び込むことになるわけですね。だから、その辺のところを考えると、しっかりと外交能力を持っていい関係を築いていく力っていうのが大変大事、ちょっと話がずれてきました。すみません。というようなことで、いろんな、そういう議論をしていかなければいけないなというふうに思います。議論をしていくためには、問題提起をして、おれはこう思うが皆さんはどう思うかというふうなことの中で、違う意見の方と意見交換をする中で、お互いに学び合うことができる、こことここね、正反対のような感じだけでも、地球は丸いというふうなことがあって、お互いに理解が深まっていくとですね、だんだん深いところで近づいていくことができると思うんです。その深いところで一致した意見というのは、最初の正反対の意見よりも恐らくは正しい、より正しいところに近づいてきていると思うので、違う意見同士が議論をぶつけ合いながら学び合って、なるほどと思うところに、深いところで、浅い表面的な発想じゃなくて、なるほど、なるほど、なるほど、しかし、しかし、なるほど、しかしっていうふうなことの中で、たどり着いてくるところ、そこを目指すことが大事かなと、命と暮らしを守るためには、じゃあ、軍事力についてどう評価すべきなのかっていうふうな議論を積み重ねていくっていう必要があるかと思うので、そのためにも、じゃあ、原発は、本当に目先の経済に過ぎないのではないかと、長期的に考えてどうなのよとか、いろんなことを議論をしていくというふうなことが大事なことかと思うし、TPPも隠されたまま進むんじゃなくて、いろんな問題点を共有しながら議論することが必要だし、そういう形でいい議論をするためには、問題点を共有し、違う考えを批判し合うことが必要かなというふうに思います。お答えになつたかどうかわかりません。

○9 番 (竹沢久美子) 前々から村長は、民主主義の原則とか、そうした今のようなご意見を申されておりますけれど、きょう、実は、私、今朝、新聞を見ていて、そのことをちょっと感じたのは、これは中日新聞ですけど、「政治家と知性」という中村桂子さんの「時の重り」というところに、やはり、昔のギリシャのプラトンの言葉というか、プラトンが、まあ、心理そのものへと魂の目を向け帰ることで、そのためには政治家というのは、やっぱり、哲学者でなくてはならないというようなことを言っているというような文章がありました。これは、ほんの一部、例ですけど、やはり、こうした首長にも、そうした理念というか、そうしたものが必要だと思っております。

それでは、最後に、3期目を目指し、既に12月には出馬表明をされておりますし、また、この2月には前村議の藤川氏が出馬表明をされました。

2期8年の総括を踏まえての村政の課題、3期目の思いをお聞きしたいと思っておりますが、事前運動でフェアではない形は望んでいないというので、お答えがお答えいただけるかどうかわかりませんが、今の自点での、そうした2期を終えての総括と3期目への、そのお気持ちをどう考えているかお聞きしたいと思っております。

○村 長 今、今回、触れなかった部分としては、役場の庁舎と、それから学校とか、そういう村の主だった建物の耐震化ということについては完了をしておりますし、それから、老朽化した地区の集会所を高齢者支え合い拠点施設、あるいは介護予防拠点施設として建てかえたりバリアフリー化というふうなことも、使いやすくするっていうふうなこともできたのかなあというふうに思います。そこに、すべての集会所ではありませんけれども、災害時の拠点となる、あるいは孤立化が予想されるようなところなんかには非常電源装置というものを設置することができて、災害時には心強いかないというふうに思っています。

それから、これは、もう地域の住民の皆さん方の力によるところが、もう、大変大きいんですけども、獣害防止さくというふうなことで、農地を獣害から守るというふうなことについてもできたのかなというふうに思います。

それから、村道初め、先ほども申し上げましたが、総合計画とか過疎計画等々についても、大きなおくれなくというか、逆に先走ってというか、何か、前倒しでできているかなというふうなことは思います。

ただ、一番のことは、昨日も申し上げましたように、村民の皆さんに、そのそれぞれの得意とするところ、地域の魅力、可能性を生かして、継続可能な大もうけはできないけども、引き継いでいけるようななりわいを立ち上げていって、都会で苦労している子どもも呼び戻してやろうかなというふうな、そういうふうなことが、もう少し広がってくるといいのかなというふうな思っておりますので、その辺にいい形で喜んでもらって、その対価を得ることは非常に大事なことなんだというふうな、こう、何と言いますかね、気持ちの切りかえみたいな、村民性みたいなところをですね、もてなすのは本当に大変すごいんですけども、それだけじゃ続かないからってところの考え方を少し取り入れていただくのと、それから、じゃあ、具体的に何からどうしてばいいのかっていうふうなところですね、何かをする、し始めるためには、何か、

やっぱり、登録をしたりとかですね、許可を取ったりとか、いろんなこともあるし、資金をどうするのかとか、あるいは、どれくらいの改装が必要で、それによってお金がこれくらい要るけども、それがどれくらいで回収できるのかという、そういう経営の大まかな計画とかですね、いろんなことが必要になってくるかと思えますし、その辺も個々に、いろんな専門家も含めながらつないでいって、いろんな勉強ができたり、ほいじゃあ、やってみようかっていうふうな人が少しでも増えるようなことっていうのが次の課題かなというふうな思っております。

○9 番 (竹沢久美子) すみません。最後と申しましたけど、ちょっと1点、質問を落としましたのでお聞きしておきたいと思っております。

日本で最も美しい村連合への加盟が行われ、中川村の歴史や文化、景観等の再発見の役割も果たせたと思っておりますけど、まだまだ村民の暮らしに結びついた活動、いわゆる村民が誇りを持てるものというところまでは、まだいっていないと思っております。そうした中で、景観条例なり、住民協定も任期中にはとの一般質問の答弁がありましたけれども、この点については、まだ、ちょっと実現していませんが、どんなように考えているかお聞きしたいと思っております。

○村 長 その質問がなくて最後とおっしゃったんで、しめしめと思っております。

美しい村連合につきましては、加盟のときに見に来ていただいて、里山、どちらかというところのほうの景観等々、景観ですとか、あるいは人々のなりわいっていいですか、暮らし方みたいところを評価していただいたんですけども、その後、例の理兵衛堤防、教育委員会、あるいは国交省さんなんかのお助けもいただきながら、理兵衛堤防の周辺なんかも、歴史、それから景観的にもきれいになりましたし、河川公園もそうですし、それから坂戸橋等々、天竜川沿いのところも随分魅力ができてきたのかなというふうな思っております。

さらに、まだ、中川村の魅力となっているものなんかもありますし、そういうものについても、環境整備、保全をしていかなければいけないというふうな思っています。

それで、おっしゃったところの、何だ、景観条例、あるいは条例的なもの、あるいは景観協定というようなことを、ちょっと中途半端な言い方をずっとしてございましたけども、今年度じゃないわ、任期中にというふなことを申し上げておりました。確かに、そのつもりで、時間軸を設定しながら準備を、心づもりをしてくれておったと思っておりますけれども、この後ですね、例の地域力創造アドバイザーの井上さんに入ってもらえるというふうな、大変いい話が生まれてきてまして、例の定住促進地域活性化のための基本計画の策定というふうなことの作業が、ちょっと後半になってから入ってきたりとか、それと、もう1つは、例の緑の分権改革というようなことで、東京方面のレストランなんかの、あれもいただきながら、猟友会の皆さんにも頑張ってもらっていただきながらというふうなことで、いろいろ、そういう急な形での計画策定、報告書の作成みたいなことがございましたので、ちょっとばたばたになってしまって、そちらのほうのデッドラインのほうを優先をしなくてはいけなかったというふうな事情があっ

て、ちょっと、今年度中は——今年度じゃないわ、任期中というのは少し難しいのかなというふうに思っております、その点については、ちょっとおわびをしなくてはならないのですが、ただ、来年度はですね、日本で最も美しい村連合の再審査、中川村は本当に美しいのか、より美しくなったのか、美しくなくなったのかというような審査を、連合のほうから5年ごとにするという、その年になっております。その中ではですね、そういう地域の住民の皆さんと一緒に、地域ってというような村の美しさを守るという仕組みがあるのかどうかというふうなことなんかも評価の対象になってきますので、それに向けてですね、その辺がなくてですね、こういう制度もなくて、美しくする気がないんじゃないかと言われてしまうのも困りますので、そちらに向けては、しっかりやっていかななくてはいけないなというふうに思っております。

○9 番 (竹沢久美子) 2期8年を総括していただいたわけですけど、平成25年度予算でも、骨格とはいえ、子育て支援で片桐保育園の未満児室等の改修8,860万円が盛り込まれております。2期目の任期は迫っておりますが、住民要求に沿った施策が実施されることを願っております。

以上で私の質問を終わりにします。

○議長 これで竹沢久美子議員の一般質問を終わります。

次に、2番 高橋昭夫議員。

○2 番 (高橋 昭夫) 私は、通告に従いまして、1点、日本で最も美しい村として、これから求められるものということで村長にお聞きしたいと思います。

今の質問、答弁、やりとりの中に、村長は進めていきたいと、こういうお話がありましたけれども、私の質問に対するものは、過去として、村長選、間近でありますので、進めて、こう、きたという意味の腹のうちをお聞かせいただくことが、明日につながる継続のものだと思いますので、よろしくお願ひしたいと、こう思います。

美しい村、これは、そのものに加盟をして、私はよかったなあと思います。ただ、村民が、どのくらいこの美しい村というものについて認識をされているのか、あるいは行政も、そういうことをどういうふうに生かすのかというのが、いまいち、ちょっとはつきりいたしません。村民の声はさまざまな声があります。きょうの私の質問は、そうした声を重きに置いて、置かせていただいておりますと、こう思います。

その日本で美しい村に対する声として、日本で最も美しい村と、ある方は「最も美しいとは何だ。」と、「これは、中川だけでなく、飯島においても、どこにおいても、最も美しい村なんじゃないか。」と、こういうような声があります。それから、中には「やはり、美しい村、本当にそうだ。」と、「そこに生活できてうれしい。」という喜びの声もあります。また、ある方は「美しい、美しいと言うけれども、この山間の生活の実態、特にお年寄りの方の生活実態というものは、本当に、極端に言うと、ごみの中じゃないけれども、手がつかない、そうした行き届かない中での、この生活実態というものは、美しい村に、ちょっと、それは、そうじゃないんじゃないかというぐらい、それを村がどのぐらいつかんでいるのかなあ。」という声をお聞きいたします。それから、外見的、まあ、そういう部分っていうものの美しい村の見方もありますけれ

ども、「そうでなくて、それは中身の問題だ。」と、こう強調される方もおいでになります。

私は、アトリエ展というのを、今度、5月に、誘われましたので、やりますけれども、その17~18人のIターン、Uターンの皆さんが、私は、なぜ、そういうことをやるんだと、こういうことをお聞きしましたら、そのある方が「この美しい中川村に生活ができる大変うれしい。」と、「そういう思いがあって、この村の活性の中に、そういう催しがあるんだったら、催しをつくって、村にお礼じゃないけれども、力になればいいなあ。」と、こういうお話がありました。まことに温かい心持ちで、私も、ああ、そういうことだったら、今は何もかいてありませんけれども、若干、絵をやっておりますので、そういう古い物でも生かせればと、そしてまた、自然の、本当に、そのありのままの果樹園というものは中川に共通する生活の源であります。そういうもののありのままを多くの人に知っていただくと、自然の中に生かされていると、自然に学ぶと、こういう意味においていいのかなあということで、やる思いになりました。

中川村が日本で最も美しい村、世界で最も美しい村連合に加盟して4年5ヶ月が経過をいたしました。全国では49町村、長野県でも7町村が加盟をされております。4年経過の中では、加盟町村合同のイベントや総会などが行われ、連合を通じての町村おこし、地域活性の取り組みが行われております。

中川村の当事者、役場職員の皆さんも、その熱意は、私は伝わって、今、そういう認識を持っておりますが、そしてまた、村の第5次総合計画基本構想というのをつくられましたけれども、その中に一人一人が元気に生きる美しい村中川を掲げ、美しい村を1つのキーワードとして景観と環境保全、産業の振興、村の活性化を図る施策を進めていますが、村民の関心、これはどうなんでしょうか。本当に入ってよかったなあとか、やあ、その美しい村というものの本当の本意というものを、どうも、ちょっとそこがわからないとか、村は、これをかなめにしてどうやるのかと、そういう真意がつかめないと、伝わってこないということで、盛り上がり、どうも、いまいち、私は少ないんじゃないかと、熱意が余りないんじゃないかと、こういうように思います。

そこでお聞きをいたします。

加盟4年、その成果をどうとらえているかを村長にお尋ねをしたいと思います。

○村長 美しい村とはどういうことかというふうなお話が最初にございましたけれども、美しいっていうのは、一番は、今、かんでんばの塚越さんが、とりあえず、そこから始めなくちゃいかんんじゃないかということで旗を振っていらっしゃるのは、整理整頓、清潔清掃というふうなことで、整頓されて、ごみがなくて、きれいだという、生活だというふうなところを、まず、必要だなというふうなことをおっしゃっています。ただ、連合の理念っていうのは、そこにとどまるものじゃなくて、それができていないのに、その上には何も乗らんよというふうな意味だと思います。一番ベースとして、ごみがない、整頓されたっていうか、そういうふうな、その上ですね、自然景観、あるいは、自然景観だけではなくて、その上、さらに住民生活の醸し出す景観、それ

は、田んぼですとか、農地ですとか、山の食品ですとか、おうちのたたずまいですとか、そういうものがつながっていくのがすばらしいだと、その上にですね、さらに歴史だとか、文化だとか、食べ物だとか、その上に、さらに、また、おもてなしだとかですね、交流だとか、そういうふうなところまで来て、それらが、単にそういうのがすばらしいっていうだけじゃなくて、それらが地域資源として、みんなで大事にしながら、そのことによって子どもに、先ほども申し上げました、子どもや孫に引き継いでいけるなりわいにもできて、それがなりわいの、言うてみれば、下世話な大阪弁で言うと、飯の種にもなるからこそ、みんなが、その地域のすばらしさをもっともっと大事にして引き継いでいけるようになるんじゃないかという、そこまでの、非常に階層的に、重層的なですね、幾つものよさを重ねていかななくてはいけない、そういうものだというふうに思っています。だから、究極的にはですね、私としては、そういうご理解をいただいた上で、村民の皆さんにお願いをしたいのは、その先ほども申し上げた子どもや孫に引き継いでいけるなりわいをつくるのに、この美しい村というブランドを利用していただきたい、美しい村の農家民宿なんですよ、美しい村の農家レストランなんですよ、美しい村で、この季節には、こんなにすてきな物が取れるのよ、こういうおいしい物を隣の農家のおじいさんがつくってくださって、こんなにおいしいのを、私が、また、さらにお料理しておいしくするのっていうふうな形ですね、美しい村であることをうまく使っていただいて、使うだけじゃなくて、よさを、さらに磨きをかけるっていうふうなことをやっていただけるっていうふうなことになればいいのかなというふうに思います。ですから、村は何をしようとしているんだろうっていうことだけではなくて、それぞれのいい意味の欲を出した住民の皆さんが、これを活用して、どういうふうに利用していったらいいか、そのことによって自分がメリットを受けるだけではなくて、村のブランド価値も上がるし、美しい村連合というの名前も何がしかは高まっていくような形で参加をしていただけたらうれしいなというふうに思います。

準会員というのがあるんですけども、中川村は特にそれが多くて、準会員の方、美しい村連合の中でもたくさん加盟をしていただいています。ただし、先ほど申し上げたような、いい形ですね、それを利用していただいているかということ、まだ、なかなかそうはなっていないですね、準会員にはなってみたものの、例えば連合のマークをどういうふうに使ったらいいのかとか、どういうふうな形でこれを商売にプラスにしていくのかっていうふうなところについては、皆さん、まだまだ手ごたえを感じておられるというふうなところにはなっていないかなというふうに思います。とはいえ、やっぱり、村内の、そこまで、準会員になっていらっしゃる皆さん方もですね、美しい村というふうなことに、日本で最も美しい村の一員だということについては、こういう形で何度も議会でもご質問を、ありがたいことにいただいておったりということで、美しい村というふうなことに對して何がしかの誇りっていうか、自負っているふうなことは持っていたらいいと思うし、また、連合そのものの広報が、これから、まだ、どんどん浸透していく途上ですから、そんなに、まだ、日本全国で

知れわたっているっていうわけではないでしょうけども、中川村、美しい村の1つなんだってねっていうふうなお話は、中川に来てくださった来賓の方々のあいさつに必ず登場するというふうなこともありますし、徐々にでも着実にしっかりと浸透していったらいい、そういう目で見ていただけるようになりつつあるんじゃないかなというふうに思います。だから、これを生かしていくのは、村の責務でもありますし、住民の皆さん方も、ぜひ、どんどん、うまく活用していただきたいというふうに思うところです。

○2 番 (高橋 昭夫) 私は、今のお話はいろいろお聞きしておりますので、その思いを、我々、この議会や、こういうところじゃなくて、村民が主役ですから、村民に知らしめるんじゃないけど、わかっただく、そのことがわかることを母体にして、そして事が始まるっていうふうに思います。そういう本意を本当に伝えてきたかって、願いを込めて、しかも温かく、そういう形があったかどうかという形において、私は、若干、その冷めを感じるという、こういうふうなので、テレビでも10分ぐらい話をし、その熱意を、村長の示すものを村の人たちにわかっただき、美しいとはこうだと、そういうような部分を、このきめ細やかに、やっぱり伝える義務っていうか、そういうことが、私は大きいし大事じゃないかと思います。

その全国のっていう形には、大会へ出ます、大会があります。年に一度、総会もあり、そのものにも熱心に取り組んでおられることはわかりますけれども、それを村民はわからない、やはり、そこに参加して、どういうことをやっているって、そして、どういうことを、よそはどういうふうにしているっていうことは、それは、村の人たちは、市民は、努力されて、ありますけれども、それは、余り響いていないんじゃないかっていうふうに思います。

美しい村シンポジウムというのが、去年、昨年、ありました。150名、私は、もう少し多くていいんじゃないかなあという感想を持ってお聞きいたしました。その講演の中に伊那食品、かんでんばばの会長が、塚越さんですね、講演がありました。日ごろといいますか、この取り組みというか、そういう中に、村長は、身近におられる方ですから、教えが大変大きいと思いますけれども、どんな感想をお持ちでしょうか。ちょっと、まず、講演は、その後にお聞きしますが、やっぱり人材を、本当、そういう出会いがあったというのは、村長も、その形が伝わって加盟をされたと思うんですね、あの人の心といいますか、どういうふうに受けとめておられるかお聞きしたいと思います。

○村 長 塚越会長、連合的には副会長になりますが、にお会いしたのは、加盟した後だったかと思います。だから、塚越会長の出会いでというわけではありません。その後、いろいろ夜遅くまで飲んでお話を聞くというふうなことも大変何度も、そういう機会、大変多いわけなんですけども、何ていうのか、すごく、こう、話の、話しやすいし、気さくにお話をしていただけるし、それからまた、やっぱり、今まで経営者としても苦労なさって来て、その中、それをすごく深い考えで、そのどうすればもうかるかとか、今がチャンスだからもうけようとか、そういう考えじゃない、本当に、年輪経営

とおっしゃったかな、その長期的に少しずつ少しずつ無理をせずに、取引先にも消費者の皆さんにも社員の働いている皆さんにも喜ばれるような形で、無理をせず少しずつ少しずつ頑張っていくんだって、それから、いろんなところの工場の、ちょっとしたところに、その気遣いをしながら、工場の前にバス停があったら、それを、ちょっと、こういうふうに、自分の土地の一部をこういうふうな形で使ってもらえばいいというふうなこととか、本当に、こう、考え方の基本がですね、いいところから根ざして、その出発点のところから発想をしておられるなというふうに思います。その考え方がですね、もう1人、副会長という形でカルビーの松尾さんっていう方が連合の副会長をなさっていただいているんですけども、そういう方とか、ほかにもたくさん経営コンサルタントとか、いろいろヨーロッパの事情に詳しい方もいて、そしてまた、連合の市町村長のほうも非常に個性的な人がたくさんいらっしゃるって、いろいろお考えを持っていらっしゃるというふうなことで、その中で、どうしてこうかというふうな議論をしながら進めているというふうなことで、ああ、先ほどの質問の塚越副会長の人となり、そこから学ぶ、学べる、学ぶべき部分っていうのは、ちょっと、前半に申し上げた、そういうようなことでございます。

○2 番 (高橋 昭夫) 塚越さんは、会長さんは、その美意識が豊かで、そしてまた、今、言われましたけれども、仕事に関する、いろいろ回顧しながら前進しながら、しかも、余り思いでなくて冷静に前進していくという方で、しかも、その事業に関しては、1人ではなく、会長ではなく、みんなが心一つしてやっていくんだという、そんな思いが、その講演の中にお話がありました。

それで、その中の会長さんのお話では、その会長の思いというものを、その職員に知らしめるわけじゃないけれども、朝礼を多くして、回を重ねて、その知っていただく、理解をしていただく努力の積み重ねの中に、何か、だんだん、だんだんに、その熱というか、みずからが行動をして、建物を、そして周りを、そしてさまざまに美意識を豊かに持たれて、今のあの美しい境内、会社、それに進んでいるんじゃないかというふうに、私は講演の中で思いました。それは、村の人たちもお聞きしているわけでありまして、そのそれを今度は村の美しい村に充ててみますと、村長が、ある意味で決断をなされて、村の人たちも喜びの部分も含めて加盟をした、その母体、中心となる部分は、役場職員に、私はあると思います。それで、会長は、朝礼などという形で、その思いを皆さんにわかってもらうように努力をされました。

村長は、この美しい村へ加盟としたという、この心意気というか、これから頼むというか、そういう部分を職員にどういう形で示されたか、朝礼をやっていないという形のものとは再々お聞きしましたので、全員っていいですかね、総体、皆さんに、それから、教育委員会もそうですね、あるいは歴史館もそうです。先ほど申されましたけれども、そういうさまざまに関して、みんなにわかってもらうという形の姿勢の動きというものは、どういうふうに示されたかお聞きしたいと思います。

○村 長 毎朝の朝礼というのは定例化でやっておりません。何か、何ていうんですか、特に節目のときくらいですね。特に何か要件があるときには、また、あれですけど、その

機会も、そう多くはありません。

そのことはさておき、朝礼ですから、朝礼で言うことでもないと思いますし、ほかのいろんな、それこそ、それこそ、そのとき、そのときの課題、どうしていくのかというふうな中ですね、そのことについて繰り返し、この議会で繰り返し、もう、皆さん方も耳にたこで、もう、それは知っているからいいわというような感じかと思えますけども、そういう同じような形で申し上げてきているというふうに考えております。

○2 番 (高橋 昭夫) それで、職員の美しい村加盟をしての認識というのは変わったと思われませんか。あるいは、そのことによって何か、建物の周りに植物を、去年、まかれましたね。それは、日よけかもしれませんけれども、そういう庁舎の周りの美、美しく守る、あるいはつくるというような形のものっていうものは、どういうふうに見ておられますか。

○村 長 役場の職員のみならず、中川村の住民の皆さんもというふうなことだと思いますが、例えば、この冬は雪が多かったと思いますけども、雪かきなんか、私が出てきたときには、職員みんな出てくれてですね、雪かきもしてくれている、それから、定期的に植栽の草刈り等々もしてくれているというふうな形で、それは、だから、美しい村連合に入ったからというわけではなくて、もともと、そういう風土というか、そういうものがあつたんだなというふうには思っておりますけども、塚越会長も、その整理整頓という中でですね、(笑)ちょっとすみません。変なことを思い出してしまって。雑草のことをね、よくおっしゃっている、雑草が、そのかんでんばばの建物のところには全然ないんだというようなことをおっしゃっておって、きのうも雑草のお話にはなりましたが、なかなか、その組織で対応しなくてはいけないような大がかりなところは別にして、本当に、私が来る途中、南陽のあたりなんかでも、本当に、その道のわきのところにはですね、地元の皆さん、老人会だろうと思いますけども、花を植えていただいている、両側に花が植わっているというふうなこと、そういう、何とかみんなで地域をきれいにしていかななくてはいけないなというふうな、共同作業だとか、そういうふうなものが、本当にしっかりと、まだまだ中川のところは根づいておって、結構、だから、その辺はね、改めて、こう、強く言うよりも、その自主性の中でですね、そういったものが広がってくるというふうなことのほうが、私は、望ましいというか、いいことなんではないのかなと思うし、そういう村の、何ていうか、みんな自分たちの周りをきれいにしようというふうな地区のまとまりっていうふうなもの、逆に大変誇らしい部分だなというふうに思います。

何か、ちょっと言っているうちに、答えになっているかどうかわからなくなりました。

○2 番 (高橋 昭夫) 塚越会長の願いというか、思いというのは、その職員の、会社のですよ、会社の願いというのは、職員に模範を示してほしいと、そういうような願いがあつて、ですから、きのうの、つまり、個、個、個人のですよね、心の動きっていうか、そういうことをうんと求めておられると思います。ですから、きのう、質問の答

弁のやりとりの中に、例えば道に木が折れている——折れているっていうか、ちょっとおかしいとか、なんだとか、かんだとかっていう折に、やっぱり、それは、そのきのうの答弁でいえば、地域から上がってくればですね、手を打つというお話がありましたけれども、ちょっと職員が、そこに感度を持って、いや、こりゃあっていう、その美しい美しくないっていう形でなくても、自然体が崩れると、そういう部分においては、自発的といいますか、これはこうだという形の心のざわめきというものをいのように動かしてやってくれるっていう、そういう発想じゃないですか、会長の言われることは、ちょっとしたようなことにきめ細やかに心を向けてやっていこうっていう形じゃないかと思います。それを、私は、だから、そういう部分のものを職員の皆さんにおつなぎしていただくと、職員も、何か、やっぱり温かくなってくるっていうか、そういうような感じがするんですけど、したわけです。それは、答弁は結構ですが。

20年、平成20年から今年度までの加盟後の経費っていいですかね、これが大体420万円、これを、私は、金をどうのこうのじゃなくて、一生懸命努めておられますし、そのものを、やっぱり基にして、大いに美しい、最も美しい村につながっていけばいいかと思いますが、24年25年の予算説明というのを見てみますと、事業科目っていいですか、イベント、それから、今でいうおつき合いというようなもの等ありまして、DVDを今年度はつくって、来年は、それ、ないですけども、そういう部分がありますが、施政方針っていいですか、そのものの中には、農業——農業っていいですか、ちょこっとですね、ちょこっとお話がありました。それは6次産業っていうやつ、6次産業という形でのお話はありましたけれども、こういう美しい村という形での願い込んでいるか、そういうふうなものはありませんでした。

これから求められるもの、あ、違いますね。ちょっと失礼しました。

活動の現況と現状というものを聞きしたいと思います。どんな取り組みをしているか。

○村長 先ほど、役場の職員が、例えば、木の折れたところがあっても対応をしていないというようなニュアンスの言葉がありましたけれども、職員も対応していますし、気がついていたら行っているし、それから、なかなかね、すべてを常に見回って、それ専門でやっているわけではないので、住民の皆さんも気づいたところがあれば教えてほしいということ、みんなでもよくしていきましょうよという、そういう意味ですので、ちょっとニュアンスが、そんなふうな感じにも受けとれましたので、ちょっと申し上げました。

美しい村、6次産業化の話は出たけども美しい村の話はなかったというふうなこと、それは、名前がなかったわけでした、先ほど申し上げたように、農業の、いろんなものを利用しながら、農業を中心として、農業だけじゃないですけども、それぞれ住民の皆さんが、何ていうんですか、なりわいというか、ぜいたくできなくても、所得を増やして、高付加価値化をして、村のよさがみんなで引き継いでいけるようにしていこうというのがあれですので、6次産業化っていうのも、美しい村と一致する、その最大の言葉で言えば6次産業化だし、6次産業化をうまく回していくための1つの、ほかにはないブランドのつけ方として美しい村があるというふうには思っていたけれ

ばいいのかなというふうに思います。

ご質問の活動の現況ということ、美しい村連合の活動の現況というふうなことでおっしゃったかと思いますが、お話がありましたとおり、基本的には、春に定期総会というのをやっております、秋にフェスティバルというのをやっております。

それから、連合として、村としてもやっていますけども、フォトコンテストの募集とかやっておりますし、ガイドブックを発行を、去年はいたしました。どこの本屋さんだったか、売り上げのランキングのかなり高位になったというふうな話も聞いております。ちょっと、今すぐに、どこの本屋、東京のどこの本屋さんだったかを申し上げる、言えなくて恐縮ですけども、それから、今度、新たに、季刊で新聞を発行しようというお話があります。タブロイド判になるかと思いますが、連合の職員がやるのではなくて、連合加盟の職員がやるのではなくて、デザイナーの方、その方もサポーターというふうな形で参加をしておられる、その方の熱意の発露というふうな形になるかと思いますが、年に4回、そういう若いデザイナーの視点で美しい村で頑張っている方をいろいろ紹介をしていくような新聞をつくっていこうというふうな話があります。

それから、2015年というのが、ちょっと特別な年になります。美しい村の世界連合の国際会議というのが日本で行われます。恐らく、一番、会長がおられるところの美瑛町、浜田会長のおられる北海道の美瑛町で実施をすることになるかなというふうに思います。

それから、日本で最も美しい村連合の10周年に、この同じ2015年が当たります。だから、10周年のフェスティバルというのは、ちょっといつもとは違うフェスティバルになるかと思いますが、これについては、木曾町さんが会場になるのではないかなというふうな感じを受けております。

あと、世界連合としては、さらにこの輪を広げていきたいということで、韓国を初めとして、アジアでもその輪を広げようということで、韓国のほうでもそれに向けての動きが始まっております。

そういったものの中で、お互いにですね、美しい村連合同士での観光の広がりみたいなことを、我々にとってはインバウンドという形になるかと思いますが、そういったこともできるのではないかなというふうなもくろみもあります。

それから、サポーター、先ほどの別のサポーターさんなんですけども、美しい村の農作物を東京のスーパー、あるいはカフェ等々で、スーパーで売ったり、カフェの料理に使っていただいたりっていうふうなことを積極的に取り組んでくださっております。

それから、長野県のブロックとしては、スタンプラリーですとか、名古屋のほうで観光、あるいは物産のイベントを仕掛けているというふうなことでございます。

そういうふうな形で、今後、いろんな活動が広がって行って、美しい村連合のブランドの浸透、あるいはブランドの価値の向上というふうなことが見られるのではないかなというふうには思っています。

今後はですね、先ほど申し上げたとおり、来年が中川村の再審査の年というふうな  
ことになって、また、審査の方々が来てくださって、現状を、再度、ご確認をいた  
だきですね、引き続き美しい村であるかどうかというふうなことも見ていただくこと  
になります。その審査というふうなことも、また、利用して、さらに、おっしゃって  
いるとおり、美しい村連合の浸透も図っていかなくてはいけないと思いますし、繰り返  
し申し上げております。これを利用していただいて、所得向上につなげていただくよ  
うな村民の増加についても考えていかなくてはいけないというふうに思います。

特に、きのうもお話が出ましたが、この面でもですね、特に大鹿村さん、長野  
県全体での共同の取り組みというふうなこともやっていますけども、それとは、また、  
さらに密接な関係をですね、お隣の大鹿村さんとは結んでいって、お互いに、その観  
光面等々をですね、連携を図っていく必要があるというふうに考えているところで  
ございます。

○2 番 (高橋 昭夫) 先ほどの職員の方のっていうのは、誤解のないように、私は、や  
っていないとか、やっているとかっていう形じゃなくて、塚越会長の言うことは、美に  
気がつく、そういう向きが大事ですよと言われたんです。例えば、クモの巣、「いやあ、  
私のところにクモの巣はないと思う。」と、こう言われました。そのぐらいあれなんで  
すけど、そんなことやり遂げ、でき切れませんが、そういう、周りのごみが落ち  
ておったら拾うとか、ちょっとのささやかな向きに視点を置くと、そういう願いを  
込められたことだったので、そういうお話をさせていただいたと、こういうことで  
あります。

そうしまして、今、お話の中では、中川のあり方が問われますけれども、これから  
どう進めていくかという形のもの、今のお話でよろしいですか。大体似たようなこ  
と？いいわけですね。

先ほど申し上げましたように、村民の声、美しい村っていう形に、いろいろな、さ  
まざまな声があります。幾つかお聞きを、それを基にしてお聞きしたいと思います。

景観と環境保全という形で、カヤぶきがあります。これ、カヤぶきっていうのは、  
一番、屋根——屋根といいますが、そういう吹きかえっていうのは大変なことだと思  
うんですけども、あれ、パンフレットなり、もろもろの、よそから来る人も、それ  
を視点、あそこを注目して来るんですけども、あの屋根をふきかえられたと、去年  
やられたって、こういうことをお聞きしました。「それは、自分でつくったんです  
か？」って言いましたら、「やあ、やりました。」って、なかなか、こう、かみ合わな  
んだっていうか、そういうこともありますし、何ていうんですか、財産というか、文  
化財というか、そういう形の決め、制度に入っていないんで、そういうことは不可能  
ということ、流れの中では理解できますけれども、そういう折に、やはり中川の象  
徴としてという、ああいうようなものに感謝をし、それをこれからも生かさせてい  
ただくという形においては、個人が住んでいるって言えば、それまでですけども、も  
うちょっと待ってくれと、条例をつくり、そういう部分において、多少に、その補  
いというか、全部はできんけれども、気持ちとして誠意を示したいし、感謝を込めた

い、だから、ちょっと待ってくれとかですね、そういうきめ細かいというか、心配りっ  
ていうのが、私は、美しい村っていう、そういう心の置き方、置き所っていうか、そ  
ういうふうに思うんですけども、どんな感想を持たれているのでしょうか。つまり、  
個人でつくったということ、あの屋根をですね、ふきかえたという形を、どう  
いう目で見ておられるかお聞きをしたいと思います。

○村 長 工事をしておられるっていうことに気がつきましたので、あっと思っ  
て、その工事のところにも行きまして、そのおやじさんと、若いお弟子さんなのかな、  
2人やっていらしゃったし、その、何ていうか、家主さんといいますか、主の方も  
来られて、いろいろな、そこでお話なりを、私のほうからも考えとかを述べさ  
せていただきました。

それ以上を言うと、また、公約の話になるというと、また、ちょっと公約が見  
えてきちゃうのかもしれませんが、そういうふうなことで、ちょっとノーコメ  
ントにさせていただきます。

○2 番 (高橋 昭夫) 私は、そういう大事なものだから、やはり変化って  
いうものに、今も、村長、言われましたもんで、そのとおりだと思いますけど、  
後から気がついたっていうことはわかります。しかし、そういう大事なもの  
っていうものに関する、やっぱり、すぐ受けとめてっていうか、そういう、そ  
して気配りというか、配慮っていうのが、うんと大事じゃないかと、こう思  
うんです。そして、そのものを、どういう話か、私、わかりませんが、仮に  
直すという場合に、村をお金を使ってとかですね、いろんな見方があります。  
そういう部分に苦を持たれて、言葉を慎んでおられるのかもしれませんが、  
やっぱり、そういう形のないように、地域や、ほかの人たちには、こうい  
うふうでっていう形のを配慮してあげることが、そういうことが美しい村  
で、心を、そういう感謝をしながらということもですね、私は大事じゃ  
ないかと、こういうふうに思います。

景観条例は、先ほどお話がありましたけれども、これから考えると、こういう  
ことでありますので、次にお聞きします。

今ありました、そういう建物、そして西丸尾の桜の大木っていうのもあり  
ますし、それから、私、前に質問しましたが、林道の桜並木というのがある  
ます。これは寄附をされたものでって言われるけれども、やはり、美しい  
村にという形に加盟をしますと、あの1本の、1本1本の種類も、品  
種が違いますし、そういう形のもは、私は、財産だと、こうい  
うふうに思います。そういうものを、もう一度、確認をし、全  
部がっていう形はできないかもしれないけれども、その木1本1本の命  
を守るということが大事なあと、そう思います。

きのう、ある人から、ちょっと、ある方から電話がありました。美しい  
村について、ぜひ村長に確認をしてほしいと、こういうお話であり  
ました。それは、日本で最も美しい村、その加盟というものを聞いて、  
同じ趣旨のような行政組織として全国駒ヶ岳サミットを思い出す  
んだと、こういうお話であります。それは、駒ヶ岳という名の山を  
有する全国の市町村でつくる駒ヶ岳友好連邦会議だそうなんです  
けれども、これを村長

はご存じでしょうか。あるいは、出席をなされているか、ちょっとお聞きしたいと思います。

○村 長 存じておりますが、中川村は入っておりませんので、ご案内状もいただいておりませんので、出席もしていません。

○2 番 (高橋 昭夫) その今の電話をいただいた方はですね、その全国駒ヶ岳サミットですけれども、北海道の森町という町長が提唱をして始めたもので、全国 22 市町村、1989 年に生まれまして、これが 2007 年に解消しております。組織が機能せず、解散をしてしまったと、それで、その電話の方は、行政の形だけで終わらないように、二の轍を踏まないようにと、心配なんだというお話がありました。やっぱり、その心が動くといいますか、ただ、ただっていう形じゃなくて、動きっていう形のものが、やはり、だんだん、だんだん冷めていくんじゃないかと、その熱意っていうか、感謝が、この今でいう加盟という形のを育てる、私は、そんなように思います。大事にしてもらいたいと、こう思います。私どもの問題ですけれども、そう思います。

それから、「日本で最も美しい村っていうのは、いやあ、そういう言葉は覚えた。」という方がおいでになります。「だけど、学校教育や社会教育には生かされているのかなあ？」っていう声があります。先ほど申し上げましたように、この美しい村に加盟して、みんな、お互いが、それを意識、認識をしてってということが一番大事かと思えますけれども、学校教育、社会教育に生かされているか、教育長に、その点について、通告してありませんけれども、よろしく願います。

日本で最も美しい村に加盟したということで、新たな学校事業という活動が芽生えたかどうかと、そんな点であります。

○教育長 突然の指名でありますので、わかる範囲で、そしてまた、やや思いつきなことがあるかと思いますが、ご勘弁いただきたいと思えます。

特に学校教育、社会教育で、その美しい村ということにかかわってのことは、今のところはないというふうに思っております。つまり、そのことを前面に出しての直接的な取り組みというものは、してきておりません。ただ、意識の中には、それはあるだろうと、そしてまた、いろんな活動の中に、そのところに結びついていくものはあるというふうに思っております。例えば、小中学校なんか、学校のことも出ましたけれども、小中学校においては、もう、そういったことの加盟以前からクリーン中川と、簡単に言えばごみ拾いのような、生徒会、児童会を通しての活動もあったと思いますし、花壇コンクールへの参加、また、いろんな菊を初めとした花づくり、また、陣馬形でのいろんな活動、そしてまた、理兵衛堤防や坂戸橋等々の、いろんな、その文化財を取り入れた、そういった活動というものが、あるいは学習があったというふうに思っておりますので、そういった、既に、もう、そういったこと、美しい村とかいう以前とかいうか、その前に、そういった村にある自然とか歴史とか文化、そういったものの地域資源っていうものは、活用されてきているかなあというふうに思っております。

また、年が明けましたんで昨年になると思うんですが、小中学生じゃないわ、小学

校の 4 年・5 年生あたりを中心に、確か定住促進化なんかのワークショップがあったと思うんですが、そのところで、子どもたちが村の将来について、いろんな思いとか願いというものを出し合っている、そういった記事等を見たんですけれども、そういうところから見ても、子どものうちから、村づくりについての関心というものは、既にあるというふうに思っております。

また、社会教育において、公民館なんかでも、そういう目で見えていくと結びついていくものはいっぱいあると思うんですけれども、特に美しい村ということを前面に押し出した形での取り組みというものは、今、されてはいないところであります。

また、先ほど村長のほうから話もありましたけれども、外から見えた講演会の講師の方とか、いろんなコンサート等にいられた方が、中川村は日本で最も美しい村なんですねというふうな、大体の最初の話の出だしのところで、そんな話がありますので、お互いに、そういうものの意識っていうものはあるんだなあということは、ちょっと感じております。

また、今朝、新聞の折り込みに入っておりますのでご存じかと思えますけれども、横前人形と申しますか、人情浄瑠璃の復活の発表会等の募集を含めた案内が入っていたと思えますが、それなんかも、今まで余り知られていなかった内容ですけれども、新しい地域資源、あるいは歴史文化の財産の発掘ということにもつながっていくのではないかと、したがって、そういった今まで既にあるものを、いろいろ、こう、結びつけていくことによって、その美しい村というものにもつながってくるんじゃないかということは思っておりますが、現時点では、そういったことを全部ひっくるめての、そういう体系立てたことをどういうふうにしていくかっていうことは、ちょっと、まだ考えておりませんので、そういったことについては今後の課題かというふうに思っています。

以上です。

○村 長 私も、ご質問を受けて、ふと思いついたことにしか過ぎないのかもしれないけれども、実は、あした、西小学校の皆さんがお弁当を開発されたので食べに来てほしいというようなご案内状をいただいています。それについてはですね、小学校のみんながですね、中川村の名物になるものを何かつくりたいよねというふうな、そういう、ご案内状に書いてあった小学生のお手紙なんですけど、そういうふうなことから、じゃあ、中川村らしさってなんだろうっていうふうなことを、いろいろみんなで考えて、中川村の訴えていくべきよさみたいところは、どういうふうにしたら、その名物にあらわせるかというふうな中でですね、その西小学校の新しいお弁当というものを開発したんだというふうな、そういうお話でした。そこに、その美しい村という言葉はありませんけれども、その精神、中川村のよさを生かして、中川村らしさを名物として商品化できるようなことはないのかというふうな考え方っていうのは、美しい村の考え方そのものだし、子どもたちがどういうふうな思いで、そういう取り組みをしていただいたっていうのは、本当に胸が熱くなる、そういう、作文を読んでいて、そんな思いに駆られましたので、また、あしたを楽しみにしているところでございます。

○2 番 (高橋 昭夫) 学校、この美しい村連合に入ったという形で、学校において、あるところでは、この日本で最も美しい村に加盟した、そして、学校の中でいろいろ話し合いをする中で、日本で最も美しい中学校にしようと、したいと、そういう旨で、そういう意識を持って美化に努めていると、そういうお話がありました。

ちょっとしたことっていうか、美という形のものの、そういうはせが、やっぱり、美しい村につながっていくのかなあと、そう思います。

それから、前にも村長に質問をさせていただいたことがありましたけれども、景観条例ですね、これは、これからということですが、美しい村という形の中で、やはり、抵抗を受けるっていうか、何とかならないかなあというのが電柱と電線であります。そういうことを思いますと、やっぱり、その対応というのができるだけ急がれるっていうか、そう思いますけれども、その辺は、長期視点っていうか、どのように考えておられるかお聞きしたいと思います。景観、美、せっかくの美しい山を線で、大体、あのカメラを持っている方は年々増えているようですけども、その人たちが残念がるのは、一番いいところは、大体、線かなんかがあるんですね。その辺のものが苦に、きつくなっておられるかと思いますが、どんな思いでおられるかお聞きしたいと思います。

○村 長 苦になっております。電線の裏側に通し直すとかですね、景観のポイント、ビューポイントといいますか、その写真ポイントみたいなところからは避けたいというふうな思いがございますし、また、携帯電話のアンテナ等々についても前から気になっているところがございます。ただ、何か、電線についてはですね、なかなか、非常にハードルが高いっていうか、金額的にも結構大変だというふうなところで、なかなか、そこに踏み込めずにいるというふうなところが実態ですけども、何か工事等々で触るときにはですね、その辺のところ、費用負担を余りかけない中でですね、そういう機会のあるときに、そういうふうなことをしていかなければならないというふうに思っていますが、何もそういう状況のないところで1からやるっていうのは、組織的に全部やってくっていくのは大変なところなので、ポイント、ポイントで可能な範囲から順繰りにやっついていかなければいけないのかなというふうに思っております。

○2 番 (高橋 昭夫) 中川村より後に加盟しました高山村っていうのがありますけど、長野県内です。そこは、景観条例を設置して、里山自然環境の保全を積極的に進めているということで、その加盟によって、住民意識を、村の景観を守っていくという住民意識を高め、地域資源として守っていく契機につながると、こういう思いで進めているそうです。電柱、電線について、何か、どうされておりますかという形をお聞きしますと、今、村長、申されたように、電柱、電線、ビューポイントっていいですか、道があってアルプスがあったら、そちら側でない山際に立てて張ってもらおうとかですね、そういう、やはり工夫をされて、現実に意見書を出すとかですね、そういう形のものをやっているようです。そして、今でいう、あの携帯用の、そのアンテナといいますか、これは40m、45m、相当高いものが、中川でも天伯にできましたけれども、そうしたものは、やはり、お願いをしまして、10mぐらい低くして、景観を優先にし

て、できるだけ考慮してもらおうという、そういう働きかけをやっているということですので、そんな面を、私どもも考えなきゃいけないんですけども、申し上げます。

それから、中川は、最も美しい村っていう形なんですけど、4年経過しておりますけど、その存在意義といいますか、これは、意見、両論あります。そんなこと、看板、そんなに大立てにするなど、そうでなくて、自然的に美しいものは美しいんだっていうことを言われる方もおいでになります。そしてまた、逆に、1つぐらいはかなめの、どこかに、ここは美しい村であると、お互いが村に誇りを持って、頑張っているんだという意思表示をするような看板をとということで、この高山村においては、高さ4m、そして幅70cmというものを、今、つくっているんですね、近く完成だと、こう言われておりますけれども、そういう部分の考え方っていうのは、目立って、まあ、目立たなくてもという控えていうのも私は大事だと思いますけど、どんなふうに見えるかお聞きしたいと思います。

○村 長 ちょっと、よくわからなかったんですけども、その美しい村なんて、こう、改めて銘打たずに、美しいものは美しいから、それでいいんじゃないかというような……

○2 番 (高橋 昭夫) 両方、意見があるんですけど、ある程度、ここはこうだという、看板についての考え方をお聞きしたいということです。

○村 長 じゃあ、ちょっとすみません。  
そういうような、美しいものは自然と美しさが醸し出されるから、改めて美しいということを主張しなくてもいいのだという考えの人もおられるというようなご発言がありましたけど、もし、そうだとすると、その美しい村連合の意義が浸透していないではないかとか、それを、そのみんなに理解をせしめようというようなお立場からすると、多分、そのお考えに高橋議員さんは立っておられないだろうなというふうに考えるしだいあります。

それで、アンテナですとか、あるいは電線ですとか、それからまた看板等々も、再三申し上げているとおりに、私自身も気になっているところがございますので、それについて、どういうふうにするのが、村民のいろんなほかのニーズとか、いろんな、美しさだけですべてをジャッジして決めていくわけにもいきませんので、いろんなご意見も聞いたりもしながらですね、とはいって、ちょっと、多少の費用負担とか、あるいは我慢をしてもらおうところがあっても、村全体としてよければですね、そのことによって戻ってくるものもあるんじゃないかみたいなことの議論も必要になってくるかと思っておりますので、その辺のところをですね、景観に関する、何か、こう、合意形成みたいなことの中でですね、取り組んでいくべきではないかなというふうに思っております。

○2 番 (高橋 昭夫) 私は、看板の必要性があるか、あるいは、そういうものの、1つぐらい看板があってもいいかなあという形のものをお聞きしたと、こういうことであります。

まだありますけど、時間が参りましたのですが、この日本で最も美しい村連合に加盟をして、そのことによって、村民が、新しい視点といいますか、新しい心といいま

すか、そういう認識が芽生えると、4年たちましたので、芽生えるより経過しておりますけど、そういう心を持つということに大きな意義があると、こう思います。そのためには、国や県以上に、この村として意識を高く持ってやっていくことが必要じゃないかと、こう思いを持ちまして、私の質問を終わります。

○議長 これで高橋昭夫議員の一般質問を終わります。

日程第2 議案第29号 中川村監査委員の選任について  
を議題といたしますが、ここで4番議員の退席を求めます。  
〔4番 山崎啓造君 退場〕

○議長 朗読願います。

○事務局長 朗読

○議長 提案理由の説明を求めます。

○総務課長 それでは、議案第29号につきまして説明をさせていただきます。  
氏名 山崎啓造  
生年月日 昭和20年5月7日  
住所は中川村片桐367番地でございます。  
議会議員から選任すべき監査委員として、藤川稔前議員に2年6ヶ月、お務めをいただきましたが、一身上の都合で離職願が2月27日に出されました。極めて的確な監査業務に当たっていただき、これからという時期ではありましたが、受理をいたしたしだいでございます。  
後任といたしまして、新たに議会からご推薦いただきました山崎啓造議員を監査委員として選任いただきたく提案を申し上げます。  
議員は、現在、2期目の議員でございまして、議員をされる前は建設会社を経営をされておりました。経理に関しては詳しく、また、厳しい目をお持ちと存じておりました。監査委員として申し分ない方と考えるしだいでございます。  
何とぞご同意をいただきますようお願い申し上げます、提案説明とさせていただきます。

○議長 説明を終わりました。  
これより質疑を行います。  
質疑はありませんか。  
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長 質疑なしと認めます。  
次に討論を行います。  
討論はありませんか。  
〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長 討論なしと認めます。  
これより採決を行います。  
なお、これより行う臨時案件の採決は起立によって行います。  
本案は、これに同意することに賛成の方は起立願います。  
〔賛成者起立〕

○議長 全員起立です。よって、議案第29号は同意することに決定しました。  
ご着席ください。(一同着席)  
4番議員の入場を求めます。  
〔4番 山崎啓造君 入場〕

○議長 本日は、これをもって散会といたします。  
ご苦労さまでした。

○事務局長 ご起立願います。(一同起立) 礼。(一同礼)

[午前10時58分 散会]